

2015 年度 第43 期

決算報告書

平成 27 年 1 月 1 日～平成 27 年 12 月 31 日

カネし電気株式会社
www.canare.co.jp

証券コード：5819

株主の皆様へ

連結業績概要

前期	当期
売上高	101.3 億円 ▶ 104.1 億円 (+2.8%)
営業利益	16.1 億円 ▶ 15.9 億円 (−1.0%)
経常利益	17.2 億円 ▶ 16.8 億円 (−2.4%)
純利益	11.5 億円 ▶ 11.7 億円 (+1.2%)
1株当たり純利益	171.7 円 ▶ 173.8 円 (+1.2%)
総資産	124.6 億円 ▶ 131.3 億円 (+5.4%)
純資産	105.7 億円 ▶ 112.3 億円 (+6.2%)
1株当たり純資産	1,567 円 ▶ 1,664 円 (+6.2%)

※子会社は、9 ページをご覧ください。

ごあいさつ

株主の皆様には、日頃より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。
第43期（平成27年12月期）決算報告書をお届けするにあたり、当社グループの業績概要についてご報告申し上げます。

当第43期（平成27年12月期）の当社グループをとりまく経営環境は、米国の金融政策変更（緩和策から引締策へ）、中国経済の不透明化および資源価格の下落等によるマイナス影響により、アジアをはじめとする新興国経済が低迷したものの、当社グループ最重要市場である日本市場（グループ売上高の55.0%を占める）が回復傾向であったことおよび為替相場が円安基調（当社グループは輸出額が輸入額より大きいため円安は損益面で有利に作用します。）であったことなど、全体的には順風と逆風が相半ばした状況でした。このような中、当社グループは、中長期的な競争力強化をはかるため、次世代製品開発や人材育成・強化（特に技術力、営業力強化）に力を入れてまいりました。また、当期（第43期）利益目標達成のため、販売面では、今後の成長が期待される製品群（電子機器、光製品、AVコンソール等）の販促活動を積極的に行うと同時に、生産面では品質改善や一部製品の生産移管（中国からベトナムおよび日本へ移管）によるコストダウンなどを推進してまいりました。
この結果、売上高104.1億円（前期比2.8%増）、経常利益16.8億円（前期比2.4%減）、純利益11.7億円（前期比1.2%増）となりました。期末配当金につきましては、すでに発表したとおり22円（年間45円）とさせていただきます。

次期（第44期）の業績予想につきましては、新興国市場が引き続き不透明な状態で推移すると予想されるものの、国内市場の伸びが予想されることから、売上高110.8億円（前期比6.3%増）、経常利益18.1億円（前期比7.7%増）、純利益11.8億円（前期比0.6%増）、配当金は中間22円、期末23円（年間45円）を予定しております。

株主様におかれましては、今後ともご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

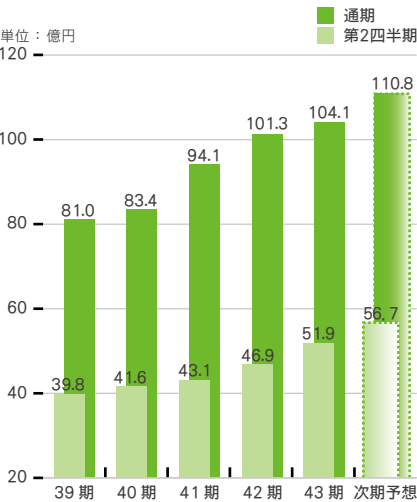
平成28年3月
カナレ電気株式会社
代表取締役会長

尾羽瀬正夫



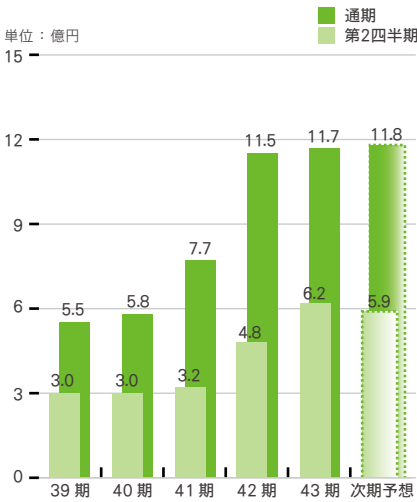
連結業績推移

売上高

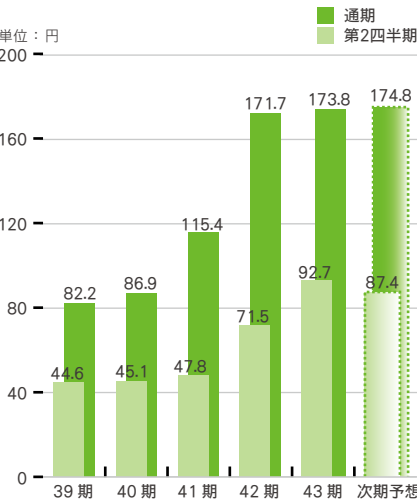


<ご注意!>次期予想は、現在入手可能な情報を基に慎重に策定しておりますが、さまざまな要因の変化から、実際とは大きく異なる可能性がございます。予めご承知ください。

純利益



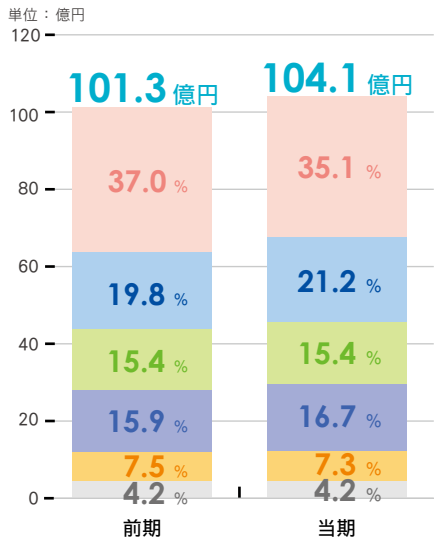
1株当たり純利益



製品別の状況

	前期	当期
ケーブル	37.5 億円 ▶ 36.5 億円 (−2.6%)	
ハーネス	20.1 億円 ▶ 22.1 億円 (+10.0%)	
コネクタ	15.6 億円 ▶ 16.0 億円 (+2.7%)	
パッシブ機器	16.1 億円 ▶ 17.3 億円 (+7.5%)	
電子機器	7.6 億円 ▶ 7.6 億円 (+0.1%)	
その他	4.2 億円 ▶ 4.4 億円 (+3.0%)	
合計	101.3 億円 ▶ 104.1 億円	

構成比



質問にお答えします。

Q1 第43期の業績はいかがでしたか？

A. 全体的にはかなり高水準の売上・利益水準となりましたが、地域、国によって明暗がはっきり分かれました。国内は主に新規製品（電子機器、AVコンソールなど）の伸びもあり比較的順調で、売上高は57.2億円（前期比6.1%増）となりました。一方、海外売上高は46.9億円（前期比1.0%減）と停滞気味でした。地域・国別では、米国で10.0億円（前期比17.1%増）、中国で13.9億円（前期比22.4%増）となったものの、韓国で11.1億円（前期比18.1%減）、ASEAN諸国で4.0億円（前期比11.1%減）となりました。また、経済制裁下のロシア向けも0.7億円（前期比67.8%減）と大幅な減少となりました。このように、当期（第43期）は海外市場、特に韓国、ASEAN諸国、ロシアなどで苦戦しましたが、円安などによる採算性向上もあり、営業利益は15.9億円（前期比1.0%減）と僅かな減少にとどまりまし

た。また、純利益は欧州の販売子会社（カナレフランス）を閉鎖したことによる特別損失もあったものの、海外子会社内部留保金に対する税効果額（将来、配当を受け取った時に発生する親会社の法人税の引当額）の減少により税金費用が減少したことから純利益は11.7億円（前期比1.2%増）と過去最高となりました。このように、当期（第43期）の業績が前期に比し伸び悩んだのは、アジア（韓国、ASEAN諸国）やロシア等で売上が減少したためです。しかし、営業利益率15.3%、純利益率が11.3%とかなり高いことから、円安メリットがあったとは言え、当社グループとしては昨年度に引き続き高水準の業績であったと考えております。次期（第44期）は、これら売上高の減少した地域での回復度合およびインド、欧米市場での市場開拓の成否が業績向上のキーポイントとなるとみています。

Q2 人民元高 / 円安による中国生産品のコストアップ対策は？

A. 当社は中国でコネクタや同軸ケーブルを生産（コネクタは自社生産、同軸ケーブルは委託生産）しており、最近の人民元高 / 円安によりコストアップに直面しております。具体的には、前年度（第42期）の人民元の年平均レートは17.19円、当期（第43期）の年平均レートは19.22円で、11.8%円安でこの分がそっくりコストアップになります。（参考：2年前と年平均レートを比較しますと、なんと20.8%の人民元高 / 円安です。）このため、当社では次の対応策を実施し、人民元高 / 円安の影響を最小限に抑えるようにしております。

①中国製同軸ケーブル
親会社であるカナレ電気（株）の利益を確保したうえで、

生産委託先と当社現地販売子会社で、直取引を行うことにより人民元高 / 円安の影響を最小限にしております。

②中国生産コネクタ

人民元高 / 円安の影響を最小限にするため、一部の製品をベトナム、日本に生産移管を行います。まだ、完全に軌道には乗っておりませんが、次期（第44期）中ごろには軌道に乗せる予定です。

短期的には中国人民元安の局面も予想されますが、中長期的には人民元高 / 円安とみております。したがって、これらの対応は当社グループにとって有利に働くと考えております。

ですが、10年ほど前に設置された放送各社の地デジ放送設備の更新需要や2017年頃から顕在化すると予想される東京オリンピック需要などにより市場が活性化され、

Q3

当社にとって追い風になりそうです。ただし、4K放送など信号伝送技術のアップグレード（高速化・大容量化）やイーサネット技術の放送設備への採用など、新技術の普及が予想され、当社もこの技術変化に対応することが不可欠となります。これらの新技術に対応した製品の市場導入を積極的に行い、お客様のニーズに応えると同時に本年度（第43期）の売上増に貢献した電子機器、光製品、AVコンソールなどの中期的な売上高増を考慮すると、国内市場全体で、年率5～10%程度の成長が可能とみております。海外市場は、アジア（特に中国、ASEAN）、

欧米に加えてインド市場での売上高増を計画しております。最近、新興市場が変調をきたしているとは言え、中国、ASEANはまだまだ成長が期待される市場ですし、欧州、インドにいたっては、当社グループにとってほとんど手つかずの新市場です。ここでのビジネス拡大はたいへんな努力を要しますが、それにより得られる売上高増はカナレグループの成長に直結します。このように、成長が予想される日本市場とまだまだ開拓余地のある海外市場を考慮しますとカナレグループとしましては中期的に年10%程度の成長が見込めるとみております。

新社長に聞く

3月17日付で、大野淳一郎氏が新たにカナレ電気（株）社長に就任しました。そこで、新社長に聞きました。



Q1. まずは自己紹介をお願いします。

A. 私、大野淳一郎は、九州の福岡出身、カナレ電気入社後、福岡営業所長、国内営業統括のあと、海外営業担当となり海外売上比率を45%まで伸ばしてきました。持ち前の明るさと我慢強さ、そして、人脈作りが得意で、それらをフルに生かしながら仕事をしてまいりました。趣味は、最近は忙しくてあまりできていませんがテニス、釣り、そして食べ歩きですが、運動せずに食べ歩いた結果、みつもない体系へと変貌、今後はダイエットを目標にします。

Q2. 社長就任の抱負をお聞かせください。

A. 与えられたものを受け継ぐだけでなく、一から見直す姿勢を大切にしながら、皆さんと一緒に歯をくいしばって頑張っていきたいと思っています。私たちの会社は、これから新たなステージに入ります。私はこの身を賭して努力することをお約束いたします。

Q3. 現状のカナレグループをどのようにみていますか？

A. 総合力で底力があり、一つの目標に向かい全社一丸となり活動できる集団で、それぞれの会社にまだまだ伸ばせる余力があると思います。海外販社においては、外的要因に大きく左右されがちですが、今後は、そのような変化に左右されることなく着実に伸ばしていける体制づくりを行う必要があると思います。

Q4. 中長期的な経営方針は？

A. 仕事の質を高め、世界で選ばれるカナレを目標に、下記の対応を中心にカナレグループの成長をはかってまいります。

- 1) 常に顧客目線で、スピード、タイミング、高品質、市場に合った喜ばれる製品開発の更なる推進。
- 2) 新市場への製品導入
- 3) 拠点展開等による海外市場拡大（EU、中央アジア、中近東、アフリカ、中南米）
カナレグループ発展の司令塔として努力していきます。

連結財務諸表

連結貸借対照表の要旨

資産の部		当期(43期) 2015.12.31	前期(42期) 2014.12.31	負債の部		当期(43期) 2015.12.31	前期(42期) 2014.12.31
流動資産		10,648,822	10,035,946	流動負債		1,491,854	1,450,623
現金および預金		6,755,388	6,350,638	買掛金		596,918	612,049
受取手形および 売掛金		1,326,936	1,398,407	未払金		187,382	153,215
棚卸資産		2,004,357	1,717,364	賞与引当金		56,702	66,655
繰延税金資産		183,697	173,027	役員賞与引当金		33,911	27,229
1	その他	385,243	411,926	3	その他	616,940	591,474
貸倒引当金		▲ 6,799	▲ 15,417	固定負債		402,588	431,630
固定資産		2,483,565	2,426,169	長期未払金		829	1,514
有形固定資産		1,251,505	1,286,104	退職給付に係る 負債		9,007	7,321
建物および構築物		246,045	248,947	役員退職慰労 引当金		68,559	61,085
機械装置および 運搬具等		228,834	254,482	4	その他	324,192	361,708
土地		776,624	782,675	純資産の部		当期(43期) 2015.12.31	前期(42期) 2014.12.31
無形固定資産		90,589	3,109	株主資本		10,800,514	9,951,581
2	投資および その他の資産	1,141,471	1,136,955	資本金		1,047,542	1,047,542
				資本剰余金		1,175,210	1,175,210
				連結剰余金		8,913,275	8,064,165
				自己株式		▲ 335,514	▲ 335,337
				評価・換算差額等		437,431	628,280
				その他有価証券 評価差額金		187,055	169,350
				繰延ヘッジ損益		—	—
				土地再評価差額金		▲ 371,051	▲ 371,051
				為替換算調整勘定		621,426	829,981
資産合計		13,132,388	12,462,116	負債・純資産合計		13,132,388	12,462,116

- point 1
- ・加工委託先への有償材料など 162百万円
- point 2
- ・投資有価証券 985百万円
- point 3
- ・未払法人税など 233百万円
- point 4
- ・繰延税金負債 292百万円

- point 5
- ・受取利息・配当金 53百万円
・投資事業組合運用益 28百万円
- point 6
- ・固定資産除却損 3百万円
・為替差損 7百万円
・賃貸原価 5百万円

- point 7
- ・投資有価証券売却益 62百万円
- point 8
- ・子会社清算損 33百万円

連結損益計算書の要旨

(単位 千円)		
科 目	当期(43期) 2015.1.1~12.31	前期(42期) 2014.1.1~12.31
売上高	10,419,408	10,137,902
売上原価	6,046,515	5,873,787
売上総利益	4,372,892	4,264,114
販売費および一般管理費	2,775,157	2,650,619
営業利益	1,597,735	1,613,495
営業外収益	107,061	123,252
5 営業外費用	19,355	10,649
経常利益	1,685,441	1,726,098
7 特別利益	62,767	36,283
8 特別損失	33,852	316
税金等調整前 当期純利益	1,714,356	1,762,064
法人税、住民税 および事業税	603,113	586,607
法人税等調整額	▲ 61,849	16,050
当期純利益	1,173,092	1,159,407

連結キャッシュ・フロー

(単位 千円)		
	当期(43期) 2015.1.1~12.31	前期(42期) 2014.1.1~12.31
9 営業活動によるキャッシュ・フロー	958,969	970,873
10 投資活動によるキャッシュ・フロー	27,806	▲ 342,038
11 財務活動によるキャッシュ・フロー	▲ 324,159	▲ 209,458
現金および現金同等物に係る換算差額	▲ 80,799	135,444
キャッシュ・フロー計	581,816	554,820

- point 9
- ・税引前純利益 1,714百万円
・棚卸資産の増加 ▲322百万円
・法人税等の支払額 ▲695百万円

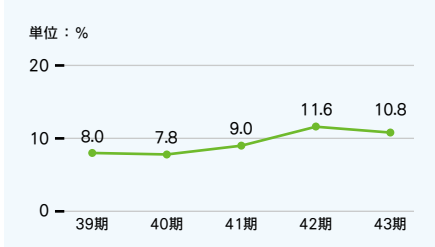
- point 10
- ・定期預金の払出しによる収入 86百万円
・投資有価証券の売却による収入 143百万円
・固定資産の取得による支出 ▲174百万円

- point 11
- ・配当金の支払額 ▲323百万円

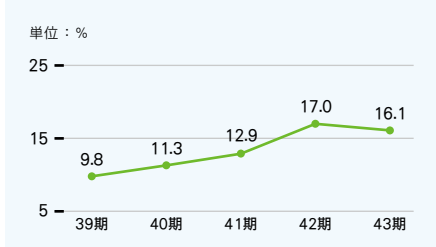
自己資本比率(連結)



自己資本純利益率(ROE/連結)



売上高経常利益率(連結)



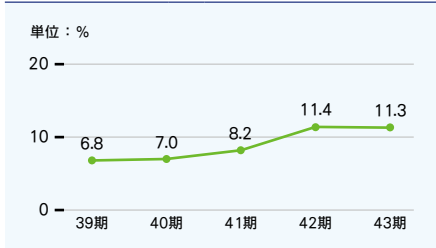
1株当たり純資産(連結)



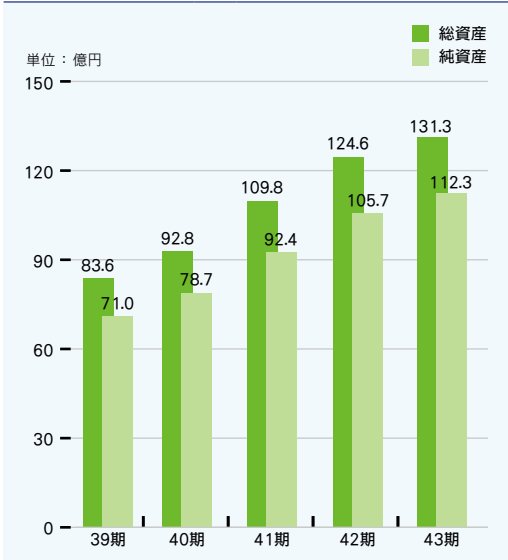
1株当たり純利益(連結)



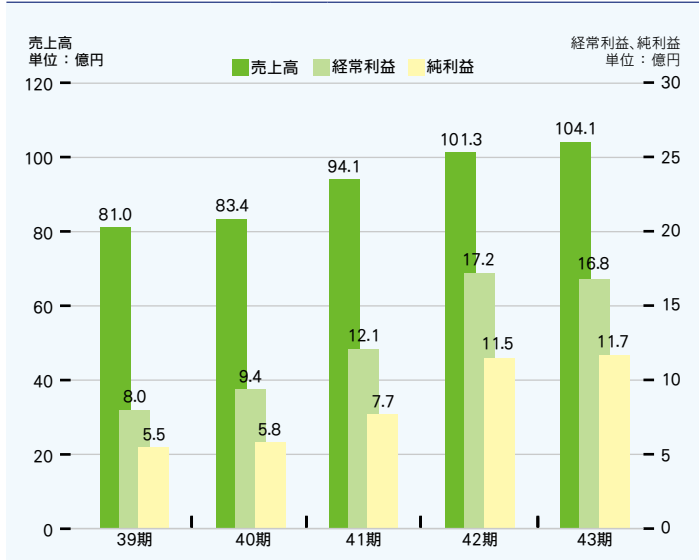
売上高純利益率(連結)



財産状況推移(連結)



業績推移(連結)

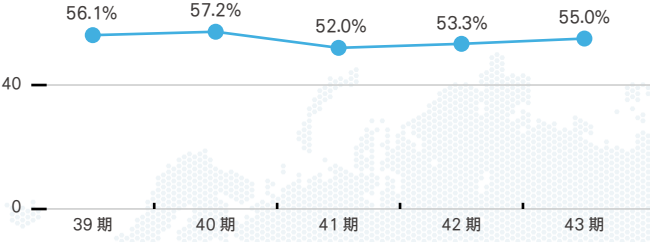


市場別売上高・構成比推移

国内市場

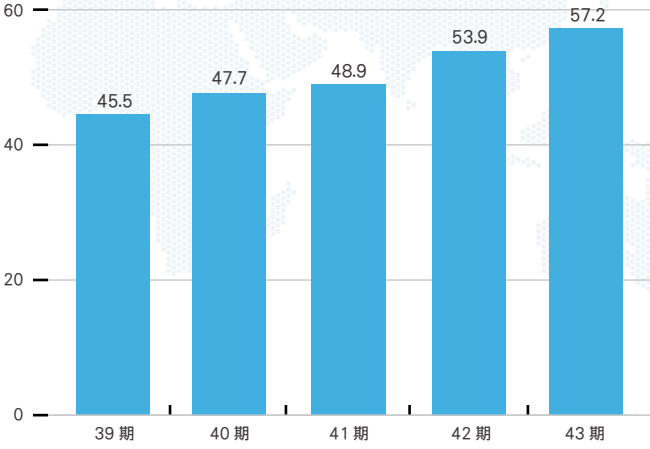
■ 構成比

単位：％



■ 売上高

単位：億円

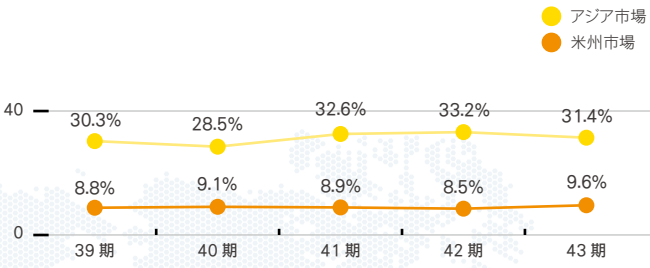


上半期に大型物件の受注や電子機器製品・AVコンソール製品の販売促進活動の成果により、売上高は前期比6.1%増になりました。

海外市場

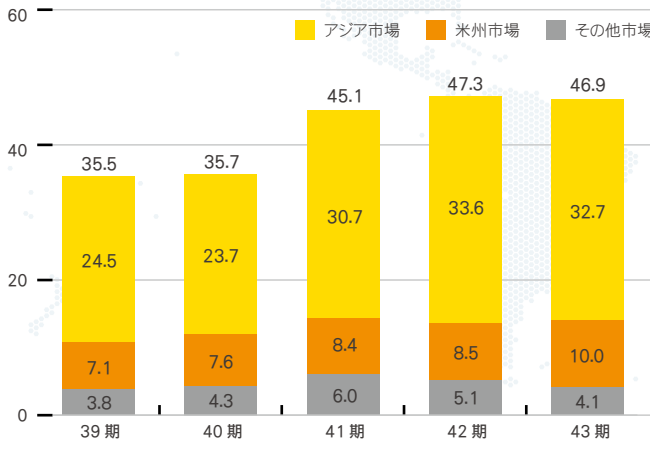
■ 構成比

単位：％



■ 売上高

単位：億円



中国の放送市場での需要増などによる売上が堅調であったことや為替相場の円安の影響があったものの、韓国、ASEAN 諸国、ロシアの経済的停滞の影響などを受け、全般的に厳しい状況で推移した結果、売上高は前期比1.0%減となりました。

※子会社は、9 ページをご覧ください。

株式の状況 (2015年12月31日現在)

発行可能株式数 23,092,200 株

発行済株式の総数 7,028,060 株
(内 自己株式数 278,470 株)

単元株式数 100 株

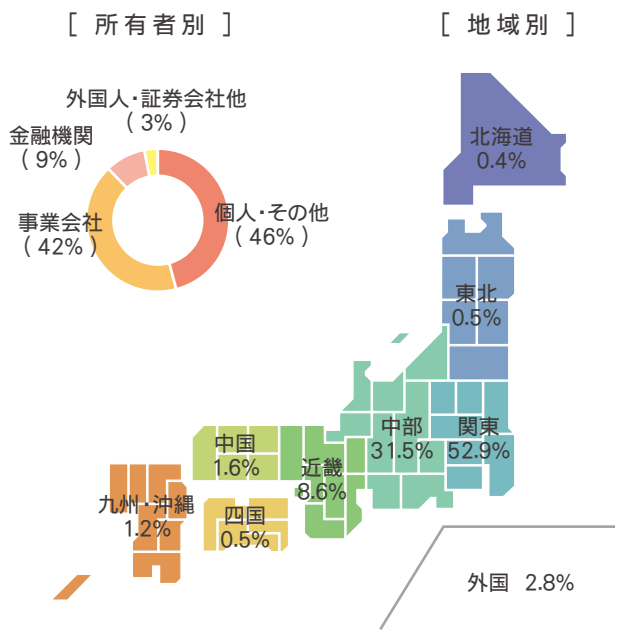
株主数 8,775名
(第2 四半期末比 615 名増加)

大株主

株主様名	所有株式数 (単位 千株)	出資比率 (単位 %)
有限会社香流	800	11.3
株式会社新高輪	800	11.3
株式会社センリキ	350	4.9
川本公夫	300	4.2
カナレ電気株式会社 (自己名義)	278	3.9
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	225	3.2
加藤宣司	200	2.8
川本重喜	200	2.8
株式会社ノダノ	200	2.8
合同会社カワシマ	200	2.8

●所有株式数は千株未満を、出資比率は小数点第2位以下を切り捨てて表示しております。

株主様分布 (議決権個数の割合による)



株主優待

カナレ電気の株主優待制度

基準日現在の株主名簿に記載され、かつ100株以上を保有されている株主様へ半期ごとに株主優待品を贈呈いたします。

同封いたしましたので、ご確認ください。

決算日	保有株式数別 優待		お届け時期	贈呈方法
	100株以上 200株未満	200株以上		
2015年 12月31日	クオカード 1,000円分	クオカード 2,000円分	今回同封	「株主総会決議通知」に同封
2016年 6月30日			9月中旬 (予定)	「第2 四半期決算報告書」に同封



〈クオカード〉

会社概要

■ 会社概要 (2015年12月31日現在)

商 号 カナレ電気株式会社

本 社 神奈川県横浜市港北区新横浜2-4-1 新横浜 WNビル4F
(登記上の本社 愛知県日進市藤枝町)

設 立 昭和49年(1974年)2月 (創業：昭和45年)

資 本 金 10億4,754万円

従業員数 94名 / グループ：241名
(パート、派遣社員は含まず)

事 業 所 新横浜本社、名古屋本社、横浜事務所、名古屋営業所、
大阪営業所、福岡営業所、光デバイス開発部

- 子会社
- | | |
|---------------------------------------|--|
| 1 カナレハーネス株式会社 | 6 Canare Electric Corporation of Tianjin |
| 2 Canare Corporation of America | 7 Canare Singapore Private Ltd. |
| 3 Canare Corporation of Korea | 8 カナレシステムワークス株式会社 |
| 4 Canare Corporation of Taiwan | 9 株式会社カナレテック |
| 5 Canare Electric (Shanghai) Co.,Ltd. | 10 Canare Electric India Private Ltd. |



※子会社の記載順序は設立順です。

取締役、監査役および執行役員

代表取締役会長 尾羽瀬 正夫

代表取締役社長、社長執行役員 大野 淳一郎

取締役、執行役員 後藤 晃男

取締役、執行役員 吉森 直樹

取締役、執行役員 中島 正敬

取締役、執行役員 小淵 敦

取締役、執行役員 祖父江 秀行

取締役、執行役員 野田 爾

社外取締役 豊中 俊榮

社外取締役 戸田 裕三

常勤監査役

監査役

監査役

執行役員

執行役員

財田 洋一

高橋 久志美

田中 耕一郎

太田 猛史

堀 隆彦

山本 英夫

IR情報に関するお問い合わせ先

小淵 敦 TEL 045-470-5503(代)

屋内編集室



制御用光コンバータ

大型映像装置を制御するための光コンバータ。



接点光コンバータ

大型映像装置のON・OFFなどのスイッチ信号を送送する光コンバータ。

現在、さまざまな中継現場で
カナレの製品は活躍しております。

中継バイク



同軸ケーブル

柔軟性を重視した移動用同軸ケーブル。

大型映像装置



映像用光コンバータ

ハイビジョン映像の光伝送システムに採用される光コンバータ。

中継用HDカメラ



光カメラケーブル

ハイビジョン撮影の現場で活躍する光ケーブル。



光トランシーバ

ハイビジョンカメラなどに内蔵する光トランシーバ。



ポータブル伝送装置

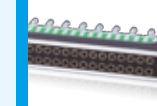
ハイビジョンカメラの映像を光信号に変換し、離れた中継車まで伝送。

中継車内



DINコネクタ

HDルータなどに使用される小型同軸コネクタ。



パッチ盤

中継車に最適なビデオパッチ盤。

株主メモ

事業年度 毎年1月1日から12月31日まで

定時株主総会 毎年3月

配当の基準日 毎年6月30日および12月31日

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

同事務取扱場所 愛知県名古屋市中区栄三丁目15番33号
三井住友信託銀行株式会社
証券代行部
0120-782-031(フリーダイヤル)

同取次窓口 三井住友信託銀行株式会社
本店および全国各支店

住所変更も
証券会社へ

■住所・氏名など届出事項の変更について

証券会社等に口座をお持ちの株主様 … 口座を開設されている証券会社までお問い合わせください。

特別口座をお持ちの株主様 …………… 下記連絡先(三井住友信託銀行証券代行部)までお問い合わせください。

なお、三井住友信託銀行全国各支店にてもお取次ぎします。

■未受領の配当金のお受け取りについて

支払期間経過後の配当金については、三井住友信託銀行までお問い合わせください。

株主名簿管理人・特別口座管理機関へのお問い合わせ

三井住友信託銀行
証券代行部

0120-782-031 (フリーダイヤル)

カネエ電気株式会社

神奈川県横浜市港北区新横浜2-4-1 新横浜 WNビル4F
TEL.045-470-5503 FAX.045-470-5504

